

# 蛭ヶ岳山荘通信 第59号

発行日 平成26年4月1日  
 発行者 北丹沢山岳センター  
 事務局 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 TEL042-687-4011  
 FAX042-687-3980

## 蛭ヶ岳山荘通信 縮刷版を発行しました

ご希望者には1冊600円(送料別)でお分けします。事務局までご連絡を下さい。

### 蛭ヶ岳山荘通信 縮刷版

平成10年8月～平成26年1月



NPO法人北丹沢山岳センター

## 蛭ヶ岳

同山荘は1955(昭和30)年の神奈川県や当時の登山ブームを受け、61年に県立の山小屋として建設された。だが老朽化してきた95年9月、台風で屋根が吹き飛ばされた。いったんは廃止の動きがあったものの、神奈川県新聞の記事などを通じて存続運動が起り、97年11月に再建された。現在は県体育協会から

丹沢の最高峰・蛭ヶ岳(1673m)に立つ蛭ヶ岳山荘を運営するNPO法人の北丹沢山岳センター(相模原市緑区小淵、杉本憲昭理事長)が、第1号から15年間分の「山荘通信」をまとめ、縮刷版として発行した。500部作り、同山荘友の会や山岳団体、旅行会社などに配布。希望者には1部600円で販売する。(石本 健)

# 山荘の歴史 次世代へ

移管された同センターが運営を続けている。山荘通信はA3判で、第1号(98年8月1日発行)から最新の第58号(2014年新春発行)まで年3〜4回のペースで杉本理事長がほぼ1人でワープロ書きし、友の会会員らに配布してきた。第1号では新しい山荘発足の関連記事に並んで、「シカ対策について」の見出しで「注意」(第37号)「など、さ

## 15年分「通信」縮刷版に 北丹沢山岳センター発刊



蛭ヶ岳山荘通信縮刷版を手にする杉本憲昭さん

まさな山の情報が並ぶ。丹沢大山自然再生活動関連の記事も折に触れて載せられ、2004年ごろからはヤマビル被害の記事も出てくる。杉本理事長は74歳。山荘運営の業務は長男の岳人さん(46)に譲った。「山荘は多くのボランティアにも支えられている。これからの山荘の歴史を、長男や次世代を支えるボランティアの人たちに伝えたい」と考え、縮刷版をまとめた。



丹沢山塊の主峰(標高1672.7m)

## 蛭ヶ岳山荘

丹沢山塊の主峰

360°大パノラマの山頂に建つ山荘

## 新しくパンフレット 作成しました

ご活用ください。



自然環境に配慮した、利用しやすい山荘

管理運営 蛭ヶ岳山荘委員会

## ～人も自然もいきいき丹沢～ 丹沢大山自然再生活動報告会



日時 平成26年2月2日(日) 13:30～16:30  
 会場 ソレイユさがみセミナールーム1  
 主催 丹沢大山自然再生委員会  
 共催 神奈川県自然環境保全センター

### プログラム

13:30	開会
13:30～13:35	1 あいさつ 丹沢大山自然再生委員会 委員長 羽山 伸一
13:35～14:00	2 活動報告 (1) 清川村における登山再生・「蛭ヶ岳の森」森林整備 神奈川県山岳連盟 松野 晋 (2) 相模原市青根における神の川広河原の植林、下草刈、シカ捕獲 NPO法人北丹沢山岳センター 加藤 博恵 (3) 相模原市緑区「止むの森」森林整備及び野山ビジョンにおける清掃 町田グラウワス山の会 安田 優
14:00～14:25	
14:25～14:50	3 休憩
14:50～15:10	4 活動報告を聞いて 進行：NPO法人北丹沢山岳センター 理事長 杉本 憲昭 ・緑区農林地産振興委員会 関戸 淑文 ・NPO法人みるく山の会 鈴木 茂 ・神奈川県山岳連盟 落合 正治
15:10～16:20	5 まちめ 丹沢大山自然再生委員会 庶務事業専門部長 久保 重明
16:20～16:30	閉会



## 相模原市青根における神の川広河原の植林、下草刈、シカ柵補修 NPO法人北丹沢山岳センター 加藤 博恵

NPO北丹沢山岳センターの前身は、平成6年に神の川ヒュッテ再開と同時に北丹沢山岳センターとして自然保護活動を主活動として、登山道の整備、美化活動、残骸整理、植林活動等多様な運動体として設立しました。このセンターはかつて神の川流域に入っていた山梨県、神奈川県、東京都などの山岳会やそのOB達によって創られました。特に平成6年～平成11年の5年間は神の川より大室山に至る日陰新道、神の川広河原より金山乗越に至る源三新道(通称佐藤新道)、神の川より地蔵平に至る地蔵新道、神の川林道、折花神社より鐘撞山に至る鐘撞山登山道とかつての4コースの登山道を掘り起し、新道等の整備を行いました。そして平成11年には蛭ヶ岳山荘の旧山荘の廃材回収等のボランティア活動を行い、平成12年からはかつての山小屋や避難小屋、伐採小屋などの残骸整理や植林活動を行ってきました。

## 蛭ヶ岳山荘での心にふれる話

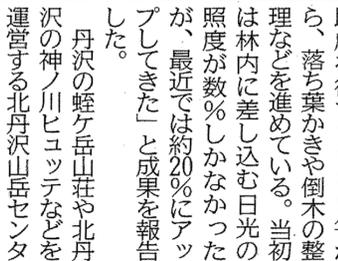
平成24年7月に32年ぶりに山頂稜線上に3匹の姫ホタルが発見されました。シカの食害を防ぐ為のシカの管理捕獲、植生の保護柵の設置で環境が改善されてきたのが好影響となつたものと思われます。その後、昨年は目撃する姫ホタルが多くなっていますが、昔の様に乱舞する姫ホタルの復活を夢見たいものです。平成24年に初めて姫ホタルが目撃された日の心にふれる話を紹介します。ある老夫婦が蛭ヶ岳山荘を訪れましたが、亡き息子が愛してやまなかった蛭ヶ岳、いつか一緒に登るなどの約束が果たせなくなった亡き息子の思いを老夫婦が背負い蛭ヶ岳を訪れました。山に慣れていない老夫婦が、丹沢山までたどるまじき息子への強い思いで、頑張ってお互いに支えあい蛭ヶ岳山荘にたどり着きました。その時に山荘の管理人が老夫婦から聞いた話ですが、10年以上姫ホタルが舞うことが見られなかった山頂に姫ホタルがあらわれ、老夫婦が小屋の窓から眺めていると夜空に3匹のホタルが舞うのが見え、外に出てみると老夫婦の脇に姫ホタルが止まり、しばらくの間、離れることなく老夫婦に寄り添っていたとの事です。その時、老夫婦は息子が天から降りてきたと涙を流しながら見ていたとの事です。姫ホタルが32年ぶりに発見された夜、老夫婦の心に感銘を与えた現象は、自然の織り成す先は、人間の尺度とは計り知れない偉大な力があるのかもしれないと思いました。

## 丹沢の自然再生を 3団体が活動報告

相模原

官民で丹沢の自然再生に取り組み丹沢大山自然再生委員会(委員長・羽山伸一)日本獣生命科学大教授)は2日、相模原市緑区橋本のソレイユさがみで活動報告会を開いた。約80人が参加し、民間の3グループが活動を報告した。 県山岳連盟の松隈豊さんは、宮ヶ瀬湖畔の清川村煤ヶ谷の山斜面約8畝で行っている森林再生活動を報告。県の「神奈川森林再生50年構想」に賛同し県の助成を得て2009年から、落ち葉かきや倒木の整理などを進めている。当初は林内に差し込む日光の照度が数%しかなかったが、最近では約20%にアップしてきた」と成果を報告した。

丹沢の蛭ヶ岳山荘や北丹沢の神ノ川ヒュッテなどを運営する北丹沢山岳センターは、本年度、調査部会を立ち上げた。民間団体も含め、これまでの丹沢大山の自然再生の幅広がり取り組みの成果を調べていきたい」と話した。(石本 健)



三つの市民団体などが丹沢の保全活動などを話した丹沢大山自然再生活動報告会 相模原市緑区橋本